

の輸入品などへの参入障壁となり一部の国内生産地にとっては望ましいのかもしれませんが、一方で医薬品のように技術と資本のある富めるものによる寡占が進んでしまう恐れも

あります（同時に昔のように海外の品種を安易に導入できなくなることもつながります）。

伝家の宝刀か、諸刃の剣か、どちらに転ぶのかまだよくわからない種

苗法ですが、今後の動きにも注視していきたいと思います。



ブランド野菜の囲い込み



今年に入って日本三大ネギの一つの兵庫の「岩津ねぎ」が商標登録されました。権利者は岩津ねぎ産地の朝来町岩津ねぎ生産組合。在来のネギの名前が商標登録できたのはちょっと驚きですが、今後は権利者以外の方が岩津ねぎを育てても「岩津ねぎ」という商品名で売ることができなくなります。種苗登録以外の囲い込みの一例ですが、産地外

でつくっている生産者には寝耳に水だったのではないのでしょうか。小松菜は日本中で栽培されていますが、少し前までは東京の地方品種にすぎませんでした。仮に在京の小松菜生産組合が「小松菜」の商標をとっていたら、今のように小松菜が広がっていたでしょうか？ 囲い込みの動きが行き過ぎないことを願うばかりです。

（※自家食用や商標権の効力が及ばない範囲で名前を使う分には問題はありません。違う名前なら販売することも可能です。また登録された商標であっても、登録後5年間は登録無効審判により異議申し立てができます）



岩崎さんの打木赤皮甘栗かぼちゃ畑（赤皮かぼちゃは金沢の伝統野菜の一つ）。赤皮かぼちゃは非常に生育が旺盛で、施肥量が少なくても多くの実をつけます。有機栽培にもってこいの品種です。



野口種苗さんよりわけていただいたトマト（アロイトマト）と岩崎さん。5年ほど自家採種を繰り返して岩崎さんの栽培にあったトマトになりました。ややこぶりでおいしいトマトです。固定種のトマトでここまでできているのは他にはない、岩崎さんの自信作です。



元祖コブタカナ。日本にコブタカナを伝えた峰氏（吾妻町）の奥さんが自家採種して守ってきた株です。吾妻町では農業活性化の取り組みの一つとしてコブタカナに着目。はちまき生産グループの皆さんもコブタカナの復活に協力しています。



トウモロコシの採種圃場。今年は収穫直前に鳥害（カラス）にあつて失敗。自家採種のプロでも、泣く子と自然災害には勝てません。（現在市販されているほとんどのトウモロコシはアメリカ産のF1種で、種苗メーカー毎に違う名前をつけて販売しています。一部では遺伝子組み換えトウモロコシの混入も危惧されています）